

令和4年度第2回
東京都現代美術館美術資料収蔵委員会
評価部会

令和5年2月1日（水）

東京都現代美術館

午後 2 時 02 分開会

渡辺文化施設担当統括課長代理：それでは、皆様お集まりになりましたので、委員会のほうを始めさせていただきたいと思います。

本日は、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから令和 4 年度第 2 回東京都現代美術館美術資料収蔵委員会評価部会を開催いたします。

私は、東京都生活文化スポーツ局文化振興部文化施設担当の統括課長代理の渡辺と申します。本日の司会を務めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

まず、本日御出席いただきました委員の皆様を御紹介させていただきます。私の向かって左の席から御紹介させていただきたいと思います。

石井孝之委員でございます。

石井委員：よろしく願いします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：神山亮子委員でございます。

神山委員：よろしく願いします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：児島やよい委員でございます。

児島委員：よろしく願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：千葉由美子委員でございます。

千葉委員：よろしく願いします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：長門佐季委員でございます。

長門委員：よろしく願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：平野到委員でございます。

平野委員：よろしく願いします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：毛利義嗣委員でございます。

毛利委員：よろしく願いします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：なお、佐谷委員は本日御欠席と御連絡をいただいております。

続きまして、事務局の職員を御紹介いたします。

東京都現代美術館副館長の茂木でございます。

茂木副館長：どうぞよろしく願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：東京都現代美術館事業企画課長の丹羽でございます。

丹羽事業企画課長：どうぞよろしく願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：東京都現代美術館事業係長の岡村でございます。

岡村事業係長：どうぞよろしく願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：どうぞよろしく願いいたします。

では、次にお手元の資料の御確認をお願いいたします。

まず、会議次第がございまして、次に、資料 1 から 5 までの資料と評価表がございまして

ので、御確認いただければと思います。

資料1としまして、東京都現代美術館美術資料収集方針がございます。資料2としまして、令和4年度第2回東京都現代美術館収集候補作品一覧表がございます。資料3としまして、作家・作品説明書がございます。資料4としまして、東京都現代美術館美術資料収集委員会設置要綱がございます。資料5としまして、評価部会の委員の名簿がございます。最後に評価部会の評価表がございます。

よろしいでしょうか。過不足ありましたら事務局にお声がけいただければと思います。

本日配付いたしました資料につきましては、後ほど回収させていただきますので、よろしく願いいたします。

なお、評価対象資料の価格評価に関する議事は、東京都現代美術館美術資料収集委員会設置要綱 第10により非公開となります。

また、当部会の議事録については、同要綱第10の第2項の定めに従い、美術資料収集決定の後、公開を予定しております。公開に当たって、委員の皆様には個人情報など公開に差し障りのある内容がないか追って確認させていただきたく存じますので、その際はよろしく願いいたします。

それでは、議事に入ります。

まず、収集作品の説明をお願いいたします。

茂木副館長：収集作品について御説明いたします。

本日、評価をお願いする作品は、購入が8件、制作委託が2件でございます。

これら作品の収集については、コレクション部会で収蔵することが適切であるという御意見をいただいております。作品の詳細は、事業企画課長の丹羽、事業係長の岡村及び担当学芸員から御説明いたします。お願いいたします。

丹羽事業企画課長：では、御説明させていただきます。

まずお手元の資料1を御覧ください。東京都現代美術館美術資料収集方針でございます。

こちらのほうは以前と変わっておりませんが、基本的な考え方といたしまして、首都東京という視点、そして国際都市東京という視点から、当館の常設展示を担うようなもの、そして国際文化の拠点となるようなものを収集するということが示されております。また、現代社会における美術表現の多様化に対応するため、幅広い分野を収集するということ。そして、現代の美術がどのような変遷をたどってきたかということを知る上で貴重な作品及び美術資料を収集するということが定められております。こちらに基づいて計画的に行うということが示されております。

収集対象及び分野でございますが、こちらの特に(2)でございますが、収集分野については、この記号が後ほど御説明する個票のところで示されておりますので、併せて御確認いただければと思います。

そして、2枚目を御覧ください。こちらのほうには今年度の収蔵購入に関する方針とい

うものが定められております。大きく収集方針と異なるところはございませんけれども、3のところ、平成12年度から17年度まで購入が休止していた期間がございますので、こちらのほうを欠落部分を補完するというにも留意するということが示されておりますので、御確認いただければと思います。

では、この後、資料2、3に沿いまして、こちらで概略を御説明してから、実際に作品の実見のところ、個々の作品について細かな説明をと予定しております。

では、資料2を御覧いただきながら概要のほうを事業係長の岡村より御説明申し上げます。

岡村事業係長：それでは、御評価いただきたい収集候補作品について、概略を私のほうから説明させていただきます。

お手元の資料2、収集候補作品一覧表と資料3、作家・作品説明書を併せて御覧ください。

まず、最初の購入作品1番となりますのは、久保田成子さんの《デュシャンピアナ：マルセル・デュシャンの墓》でございます。これは、久保田成子さんが1975年にニューヨークで行った個展の際に発表した最初のビデオ彫刻の1点です。当館では2021年に国内3館の共同によるリサーチを踏まえて、大規模な回顧展「V i v a V i d e o ! 久保田成子」展を開催いたしました。昨年度には同展出品作品より短編映像作品を先駆けて収集いたしました。やはり久保田の仕事を大きく価値づける草創期のビデオアートとの関わりを実際のビデオ彫刻によって示すことが重要と考え、候補作品を検討してまいりました。

今回、収集候補といたしますのは、「V i v a V i d e o !」展の際に久保田成子ビデオ・アート財団が監修・制作したバージョンとなるため、制作年は1972年から75年、こちらがオリジナルの初発の発表までの制作期間ですけれども、これに加えまして、スラッシュの後に展覧会の開催年である2019年が入るかたちとなっております。

価格には、このバージョンの展示・上映・貸出しを可能とする権利とともに、「V i v a V i d e o !」展で展覧し、その後、アメリカにある財団に返却されていた木製の構造体、モニター及び再生機一式及びミラー一式がついています。ただし、これらはもちろん可能な限り活用していくのですけれども、老朽化した際には同等のものに交換することが可能という考え方を取っております。これは生前の久保田の実践や考え方に基づいたものです。

続きまして、購入作品の2番から5番は、イケムレイコさんが2020年から2021年に制作した絵画2点、ガラス鑄造による立体作品2点の計4点です。イケムラさんは1951年生まれで、1972年に欧州に渡った後、スペイン、スイスを経て1980年代半ばよりドイツを拠点に国際的な活躍をされております。

当館では2005年に「M O T アニュアル」に御参加いただきました。その当時でも既に中堅あるいはそれ以上とみなし得る十分な実績がありましたが、収集の機会を逸したままと

なっていた作家のお一人です。

今回提案する作品は、コロナ禍によるロックダウン期間からそれが徐々に明けていくという時期に制作されたものです。この機会に初めて手がけたというガラス鑄造作品は、これまでの代表的なモチーフを扱いながらも作家の新たな境地を示しており、キャリアを重ねてなお深まった同時期の絵画作品とともに、コレクション展等を通じてこれまでの作家への評価をさらに更新できるものと考えました。

いずれもエディションは5で、4番のほうは5分の4、5番のほうは5分の1となっております。資料のほうには記載が漏れているかもしれませんが、トータルのエディション数は5ということです。

なお、ガラス鑄造の特性上、表面の風合いはそれぞれに異なり、全く同じものになることはないとのことでした。

4番の《K i t s u n e》という作品のほうは、ドイツの作家のお手元に残してあったものを特にお願いして取り寄せているものであります。

続く購入の6番、7番は、現在当館で個展開催中のオランダのアーティスト、ウェンデルリン・ファン・オルデンボルフの作品2点です。1962年生まれのファン・オルデンボルフは、20年以上にわたって特に映像インスタレーションを中心に活躍、2017年にはヴェニスビエンナーレでオランダ館代表を務めたほか、多くの国際展等でも作品を発表しています。彼女はこれまで植民地主義やナショナリズム、家父長制、ジェンダーなど様々な問題に関わる事象、場所、人物などを主題に取り上げてきました。丁寧なリサーチを行い、そのテーマにそれぞれ異なる立場から関わる人々を招いて撮影を行います。そして、人々が用意したプロットに沿うのではなく、それぞれの主観に従い対話することを促し、その現場の記録を細やかに紡いで、複雑なことを複雑なままに描き出す多声的映像作品として提示する優れた手法に既に定評があります。

今回の展覧会の出品作の中から、そうした手法を確立した初期の代表作《マウリッツ・スクリプト》と、今回の個展に向けて日本で制作した最新作《彼女たちの》の2点を収蔵したいと思います。こちらの2点は後ほど個展会場でその展示状況を見ていただきます。

《マウリッツ・スクリプト》のほうは、内容や撮影時の状況を踏まえ、作家がデザインした空間構成の中に2つの画面が配置される形の、規模感的にはかなり大きくも見せられる2チャンネル映像インスタレーションとして創られています。《彼女たちの》のほうは、映画のように上映形式でも見せることが許容されるシングルチャンネル映像ですが、今回の展示の中では特別にあつらえた湾曲したスクリーンに投影するというような形を提示されています。あわせて画面の中で2つの異なる時間や空間が重なり合うような編集に、映像作家としてのファン・オルデンボルフの技術力が発揮されています。

こちら資料に明記していないんですけれども、いずれもエディションは「3+AP（アーティストプルーフ）」で、代表作《マウリッツ・スクリプト》は既にオランダとスペインの美術館に収蔵されていて、こちらが最後のエディションの購入の機会となります。新作

のほうはエディション「3分の1+AP」になります。

続きまして購入の8は、「MOTアニュアル2020 透明な力たち」展に参加し、今後のさらなる活躍が期待される片岡純也、岩竹理恵という作家2名のユニットによる作品です。

二人とも1982年生まれで、主として片岡が手がける日用品がシンプルな物理法則によって動くキネティック作品と、岩竹が手がける様々な印刷物などを繊細に組み合わせてコラージュする平面作品との相乗作用を特色としています。それを効果的に示すため、「MOTアニュアル」展への出品作を中心に、購入及び寄贈作品とを併せて展示・活用していければと思っております。

この本部会で価格評価をお願いしたいのは、約50面に及ぶ大小のコラージュを組み上げて、壁面にそれをさらにコラージュする《内包される風景》という作品です。資料にはインスタレーションサイズ可変としてありますが、指示書に従い、それぞれのパーツを順次取り付けていくことによって同じ配置が再現できるように工夫されておりますので、作家が不在でもある程度のクオリティを保ったインスタレーションが可能だということも、今後の展開に非常に有利かと思っております。

最後に、制作委託というカテゴリとなります9番と10番です。いずれも池内晶子さんによるインスタレーション作品です。池内さんは、絹糸を空間の中に配した繊細なインスタレーションで知られている作家です。当館では2011年「MOTアニュアル」に参加いただき、昨年度には府中市美術館で個展が開催されたことが皆様の記憶にも新しいかと思えます。今回は展示する空間に合わせて可変する2種類のインスタレーションについて、それぞれ詳細な指示書を納品いただくという形での収蔵について評価をお願いいたします。

池内晶子さんが「MOTアニュアル」に出品された2011年時点では、本人の手によるインスタレーションとしてほとんどの発表を行っておられたため、コンセプトや作品それ自体の収蔵は困難と思われておりました。しかし、近年指示書を作成し、他者に制作を委ねるという実践例があり、その方法で作品の同一性や質を確保できることが明らかになってきたため、今回このような新たな形での収蔵が可能だと判断いたしました。これらは納品物を指示書とし、これに基づき所蔵者となる東京都現代美術館が池内晶子作品として館施設内あるいは館の主催事業の会場、これはコレクション展の巡回や館外でのプロジェクトなどを想定しておりますが、といった状況下でのみ繰り返し展示・公開することが可能になるというものです。つまり貸出しはしないということです。作家さんの活動の制約になってしまうので、本指示書で保証するのはコミッション・ワーク、基本的にはこの建物のために創ってもらった野外彫刻のように、館に帰属するものとして今後継承していくものという考え方を取っております。

なお、指示書でも説明されているのですが、展示の際の高さなどの情報を加えたものが、その都度の展示のタイトルとなります。表のほうではアスタリスクなどで未定となっている部分に具体的な数値等が入ります。加えて、この指示書の作成の2023年とともに、

都度展示を行った年を付記するような形で、展示のキャプションとすることがルールとされています。もろもろ詳細は指示書を見ながら御説明できればと思います。

なお、こちらについては今年度第1回の収蔵委員会コレクション部会において、このような形での収蔵についてご意見をいただいた上で、この第2回で作家に納品物となる指示書の作成を委託しまして、午前中行われましたコレクション部会で改めて収蔵にふさわしいとのご意見をいただいております。ですので、今評価部会では価格についてお諮りできればと思います。

非常に手短ではございましたが、概略は以上でございます。詳細は引き続き作品を実見いただきながらお話しさせていただければと思います。よろしく願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：ありがとうございます。

ここまでで何か御質問はありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これから作品の検分をしていただきたいと思います。

(委員離席)

(作品検分)

(委員着席)

渡辺文化施設担当統括課長代理：それでは、皆様お疲れさまでした。

作品を御覧になりまして、何か御意見、御質問等がございますでしょうか。

特にございませんでしたら、評価方法の御説明をしたいと思います。

評価表に金額を記載していただきまして、署名をいただきます。評価額の最高額と最低価格を除いた残りの平均値を評価額といたします。金額は税込みのものを御記載ください。評価方法について何か御質問はございますでしょうか。

それでは、お手元のボールペンで評価表の御記入をお願いいたします。御記入が終了した方は、挙手いただければ係員が取りに伺います。係員による確認後、お声がけいたしますので、御退席いただいて構いません。確認完了をもって、委員会終了といたします。

また、冒頭にて御説明させていただきましたが、本日の資料評価部会の議事録について改めて申し上げます。当部会の議事録は、資料収集決定後、公開を予定しております。事前に内容の確認のため御連絡させていただきますので、その際はよろしく願いいたします。

また、お配りした資料一式は回収させていただきますので、そのまま机の上に置いたままにして御退席いただければと思います。

今後とも東京都及び東京都現代美術館への御指導のほど、よろしく願い申し上げます。

(委員評価表記入)

(事務局、評価表確認)

午後3時35分閉会

以上